

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2010年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	社会学研究科	社会学専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	社会学研究科・社会学専攻・博士課程前期課程2年	根元 慎太郎	印
指導教員	所属・職名	氏名	
	社会学部現代文化学科・教授	阿部 珠理	印
自然・人文・社会の別	人文	個人・共同の別	個人
研究課題名	北米先住民社会における部族大学の役割 - シンテ・グレシュカ大学の事例から分析 -		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2010	年度	
研究経費	200	千円	

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

北米社会において、アメリカ先住民による高等教育機関が設立され始めたのは、20世紀後半の出来事である。それ以前の時代では、往々にして白人ホスト社会による同化主義的教育が行なわれていた。そのために先住民自身による高等教育とは、エスニシティの主張と自決を意味する重要な役割をもつものだと判断できる。部族大学（以下 TCU）と呼ばれているアメリカ先住民による高等教育機関は、現在 36 校存在する。それぞれの機関が、先住民の文化や伝統的価値観を踏まえて運営されている。本研究では、アメリカ先住民の高等教育に関する歴史を網羅し、TCU に至る背景を分析する。さらに、TCU の中でも実績を上げているシンテ・グレシュカ大学（以下 SGU）を事例研究に設定し、今日的な先住民による高等教育がどのようにして実践されているのか、その現状分析を行なう。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[文化研究] [先住民教育] [フィールドワーク]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の目的は、アメリカ先住民による高等教育機関である TCU の現状分析である。先述したように、事例分析として SGU を調査対象に設定した。現地での調査期間は、2010 年 8 月中旬から 9 月の中旬までの夏季長期休みを利用した約 1 ヶ月間の調査内容である。SGU でのインタビュー調査には約 2 週間の期間で行ない、いずれも SGU のキャンパス内で事前のアポイントメントを取らず、その場でインタビュアーの了承を得て行なう形とした。

現地調査を行なった SGU でのインタビューは、本研究の一部であり、その主な目的は文献調査によるアメリカ先住民の高等教育の歴史を網羅し、現代的な取り組みである TCU に至る背景を分析することにあつた。

合衆国でのアメリカ先住民社会における高等教育の歴史を概観すると、それは白人社会への同化を目的とした傾向が強く、かつ非一貫的な教育であるために制度として失敗であったといえる。その詳細な歴史は、白人社会によるキリスト教改宗から始まり、その後、同化主義的な目的へと移行した。一部の高等教育機関では、アメリカ先住民の伝統や文化をカリキュラムに取り組み、文化相対主義的な教育を実践した例も存在したが、合衆国全体に拡大をもたらす動きには至らなかった。アメリカ先住民自身による高等教育への関心は、19 世紀以降高まりをみせる。その背景として、連邦政府による先住民政策が影響し、徐々に貧困化する現状を、先住民自ら打破する術が必要とされたことがある。そして 20 世紀後半になり、アメリカ先住民の高等教育は、合衆国内のエスニック・マイノリティによる社会運動や、高等教育改革の影響を受けて、変化を迎える。自らの関心によって管理運営を実行できる、先住民部族社会の高等教育機関 TCU が設立された。

アメリカ先住民の高等教育は過去の政策的欠陥を改善することで実践され、さらにアメリカ先住民自身による管理・運営がなされるという新たな展開をみせている。その中心的役割として挙げられるのが、先住民保留地社会にキャンパスを置く「部族による高等教育機関及び総合大学 (Tribal Colleges and Universities; TCU)」の登場である。2010 年の時点で全米に 36 校存在している TCU は、その全てがアメリカ先住民社会によって管理・運営されている部族大学である。その内容は機関を設立させた各先住民部族社会による大学の目標宣言に応じて幾分かの違いがあるが、大きな関心として一致する点がみられる。それは欧米社会の大学と同等のカリキュラムに加えて、アメリカ先住民の伝統的な言語や生活に関連する思想や知識といった彼(女)ら独自の文化を伝承する場として機能することである。さらに TCU は、キャンパスを置く地域や共同体の経済活動や共同体社会のリーダーシップを担える人材の育成をおこなっている。以上から、アメリカ先住民社会の現状と展望を考える上で、TCU の存在は重要である。

本研究では TCU の中でも実績を持つとされるサウスダコタ州のローズバッド保留地にキャンパスを置くシンテ・グレスユカ大学 (Sinte Gleska University; SGU) を調査対象として TCU の現状を分析する。そこでの調査からアメリカ先住民社会における高等教育の現代的な役割とその実践内容について考察する。

・シンテ・グレスユカ大学 (SGU)

SGU はアメリカ先住民によって管理運営される高等教育機関の TCU に該当する大学機関である。1970 年に創立され、TCU の歴史で、3 番目に開校した高等教育機関であり、そのキャンパスは、サウスダコタ州のローズバッド保留地内のミッションとアンテロープという町に複数の施設が存在する。北中央部大学認定協会 (North Central Association of Colleges and Schools Higher Learning Commission) から高等教育機関としての設置認可を得ている。TCU の特徴であるアメリカ先住民の伝統文化を大学の理念及びカリキュラムに関して、SGU では土地と密接である歴史的背景から、平原文化圏として有名なスー族のラコタの伝統を、継承するかたちを取っている。

SGU の目的は、以下の分類ができる。保留地社会で暮らしながらにして、都市部の学生と同等の高等教育を受容できる点。アメリカ先住民の伝統を学ぶ点。SGU を通じたコミュニティの維持と発展を示めす点。

研究成果の概要 つづき

それらは「主流社会の高等教育機関としての側面」、「伝統を学ぶ場としての側面」、「コミュニティに積極的に貢献する側面」であり、TCUの中で、SGUがもつ目的は、これら3つの要素を維持することが重要であるとする。

学部の編成は大きく分類して、人文科学、ビジネス教育、教育、ヒューマン・サービス(カウンセリング、心理学、刑事裁判に関する科目選択が内包される)、工学、そして、SGUの特徴であるラコタの伝統を学ぶラコタ・スタディーズとなっている。加えて、SGUでは教育学とヒューマン・サービスの修士課程を提供している。学生数は2009年では936名でありその内の102名が修士課程である。入学者数は毎年で平均的に70名ほどであり、卒業生は60名ほどである。またカリキュラムにおいて、ラコタ言語や歴史に関する内容が、必修科目として設置されている点が注目できる。SGUに在籍する学生は、直接ラコタ学部に入學しなくても、ラコタの精神を学ぶことが可能である。SGUのカリキュラムは、学生個人の関心に合わせたカリキュラムが組まれているが、必修として大学の理念を学ぶことがなされている。主流社会の高等教育を学びながらにして、先住民の伝統的な文化に触れる多文化教育が、実現されているのだと考えられる。

・インタビュー調査

インタビューは、筆者が予め用意した質問項目を参考にして実地したものである。質問項目は、SGUを構成する教職員と、学生に対して別々の内容を用意した。教職員に対する質問は、SGUが掲げる目標宣言や、SGUがTCUの一部として、アメリカ先住民による高等教育を提供しているのか、などの機関に関する内容が中心である。学生に関しては、SGUへの志望動機や、SGUへの関心など、学生個人によるSGUへの参加意識に焦点を置いた。協力者の内訳は、学生が11名と、教職員が8名となり、事前連絡無しで無作為に抽出された質問調査であった。現地の学生や職員に聞くSGUの印象は、大学側が宣言するような理念を十分に果たし、多くの保留地内の若者に、高等教育の機会を提供していたと実感できた。幅広い年齢層の在籍学生が特徴でもあるが、授業の様子をみると、同じ様に学生として授業に臨んでいる。それは、保留地社会での若者や、年長者の学生を含め、教職員である人びとも同様に、授業に参加する場面もみられた。

現地での聞き取り調査の結果として、大半の学生がラコタの伝統に関心をもっていたことがわかり、また保留地内のアメリカ先住民の人びとに、高等教育の機会を提供している事実を確認できた。

さらに、伝統への関心だけがSGUの目的ではないことも、調査を通じて知ることができた。インタビュー結果から、SGUの学生は卒業後のヴィジョンとして、保留地社会の現状改善に関して、前向きに取り組む姿勢であると考察する。目標として、コミュニティ社会と密接な高等教育であることを掲げるSGUは、今回の調査から、暫定的ではあるが、その役割を果たしていると推測できる。

・課題

現地調査に関しては、インタビューの数やSGUの詳細な情報など、現時点では不十分な点が多く存在する。学生に対するSGUの意識調査や、学生自身の進路に関する情報は、改めて質問内容を練り直し、インタビュー調査にのぞむ必要があると考える。多くの質問項目がSGUの機関に関する質問内容に限定された今回の調査は、あくまでも暫定的な考察としたい。また、保留地社会におけるTCUの役割と将来性を考察するにも、今回の調査では不十分な内容であった。

本調査での不足点を補うべく、継続した調査が必要だと考えられる。さらにインタビュー調査に至っては、SGU構成員だけではなく、ローズバッド保留地内でのSGUの評判や、意見を取り入れることも次回の調査計画とする。保留地社会でのSGUの役割について、さらなるインタビュー調査を用いた分析をおこなうことが課題である。SGUの調査を通じることで、アメリカ先住民の高等教育機関であるTCU自体が、アメリカ先住民の将来にどのような影響をもたらすのか、その役割と将来性について考察したい。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)